

芦別市まちづくり市民アンケート

【 調査結果報告書 】

平成31年3月
芦別市総務部企画政策課

目次

I 調査の概要

1 調査のあらまし	1
2 回答者の属性別内訳	2

II 設問別調査結果

1 芦別市の現状と定住意向について	
(1) 住みやすさ	3
(2) 定住意向	6
(3) 芦別市の現状（項目別満足度）	10
2 まちづくりの方向と市民参加について	
(1) まちづくりのキーワード	13
(2) 優先すべき住民サービス	15
3 その他	
(1) 市立病院について	17
(2) キラキラバスについて	18
(3) JR 根室線について	19

I 調査の概要

1 調査のあらまし

このアンケートは「第6次芦別市総合計画」の策定にあたり、市民の皆さんが本市をどのように認識・評価し、まちづくりの可能性や方向性を考えているのかを把握するために実施しました。

(1) 調査の方法

- 調査地域：芦別市全域
- 調査の対象：芦別市住民基本台帳からランダムに抽出された19歳以上の男女
(平成30年11月1日現在)
- サンプル数：1,000人
- 調査方法：個人あての書面による郵送調査法（回答は無記名）
- 調査時期：平成30年11月14日～平成30年11月30日

(2) 回収状況

- 配布数：1,000票
- 回収数：394票
- 回収率：39.4%

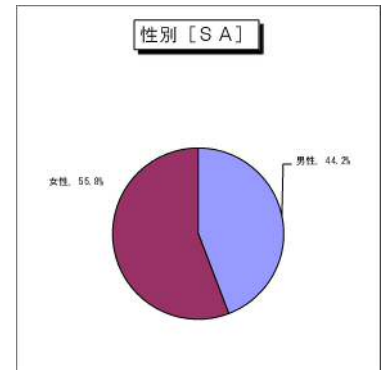
(3) 集計・表記方法

- 集計結果は、小数点第二位を四捨五入した百分率（％）で表示し、四捨五入の誤差より、単一選択の設問（S A）であっても構成比の和が100.0％にならないことがあります。
- グラフや表にある記号は、それぞれ以下を示しています。
 - S A：選択肢の中から1つだけ選んで回答
 - 2 L A：選択肢の中から2つまで選んで回答
 - 3 L A：選択肢の中から3つまで選んで回答
 - M A：選択肢の中からすべてを選んで回答
- 本文、グラフ及び表の選択肢の文言は、実際の調査票の文言を短縮しているものがあります。
- 自由記述回答については、記述事項を要約し、内容別に分類するとともに、類似回答数を（ ）内に数値で示しています。

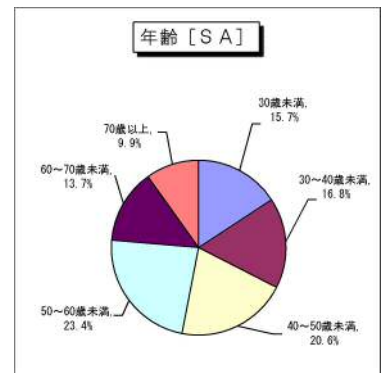
2 回答者の属性別内訳

合計		394人 (100.0%)
----	--	---------------

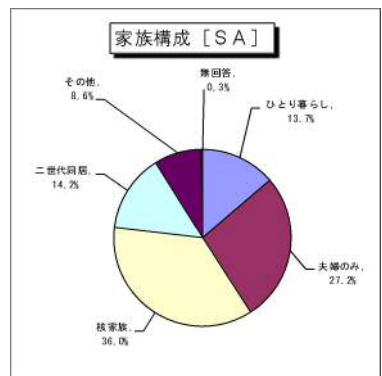
性別	男性	174人 (44.2%)
	女性	220人 (55.8%)
	無回答	0人 (0.0%)



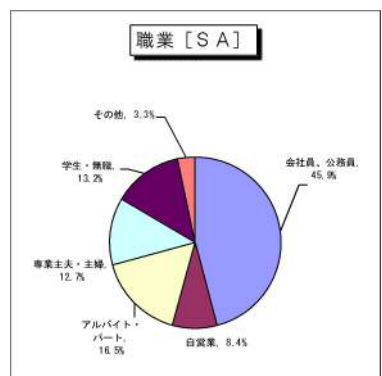
年齢	30歳未満	62人 (15.7%)
	30～40歳未満	66人 (16.8%)
	40～50歳未満	81人 (20.6%)
	50～60歳未満	92人 (23.4%)
	60～70歳未満	54人 (13.7%)
	70歳以上	39人 (9.9%)
	無回答	0人 (0.0%)



家族構成	一人暮らし	54人 (13.7%)
	夫婦のみ	107人 (27.2%)
	核家族	142人 (36.0%)
	二世世代同居	56人 (14.2%)
	その他	34人 (8.6%)
	無回答	1人 (0.3%)



職業	会社印、公務員	181人 (45.9%)
	自営業	33人 (8.4%)
	アルバイト・パート	65人 (16.5%)
	専業主夫・主婦	50人 (12.7%)
	学生、無職	52人 (13.2%)
	その他	13人 (3.3%)
	無回答	0人 (0.0%)



Ⅱ 設問別調査結果

1 芦別市の現状と定住意向について

(1) 住みやすさ

【問】芦別市は住みやすいと思いますか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

全体結果

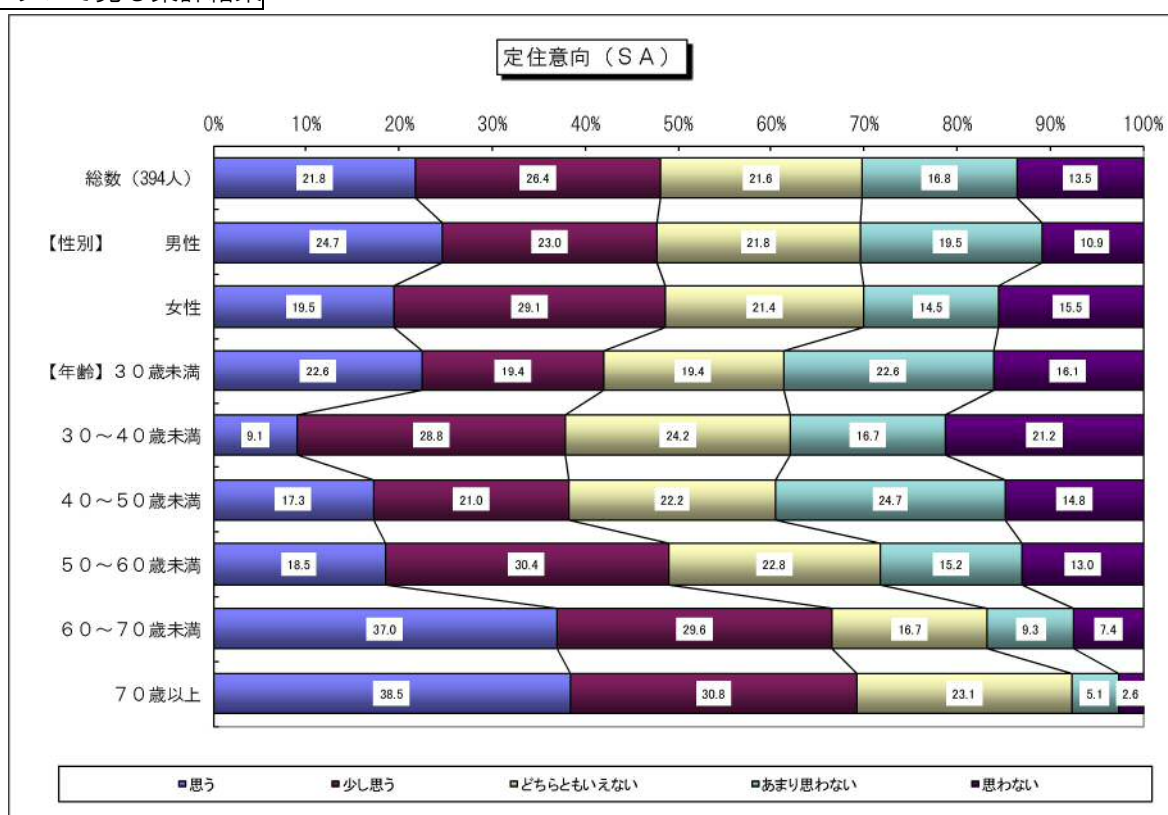
■芦別市の住みやすさについては、全体の21.8%が「思う」、26.4%が「少し思う」と回答し、この両方を合わせて48.2%の市民が住みやすいと回答している。一方、16.8%が「あまり思わない」、13.5%が「思わない」と回答しており、両方を合わせて30.3%が住みにくいと感じている。前回調査との比較においては、今回「どちらともいえない」との選択項目を追加し、21.6%の回答があったため単純比較はできないが、住みやすいとの回答割合は大きく減少している。

前回（平成20年）調査との比較

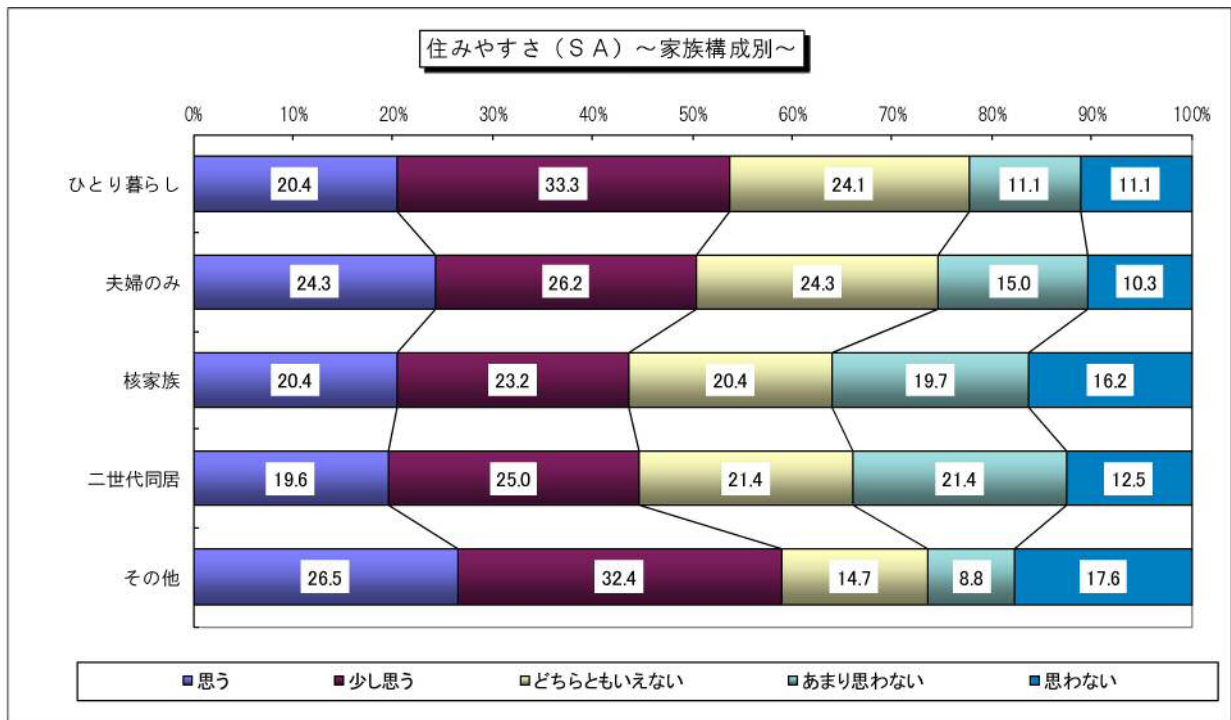
[単位：%]

住みやすさ	全体	男性	女性	29歳以下	30代	40代	50代	60代	70歳以上
H30	48.2	47.7	48.6	42.0	37.9	38.3	48.9	66.6	69.3
H20	77.5	80.8	74.7	67.6	59.6	72.1	73.2	83.4	85.4

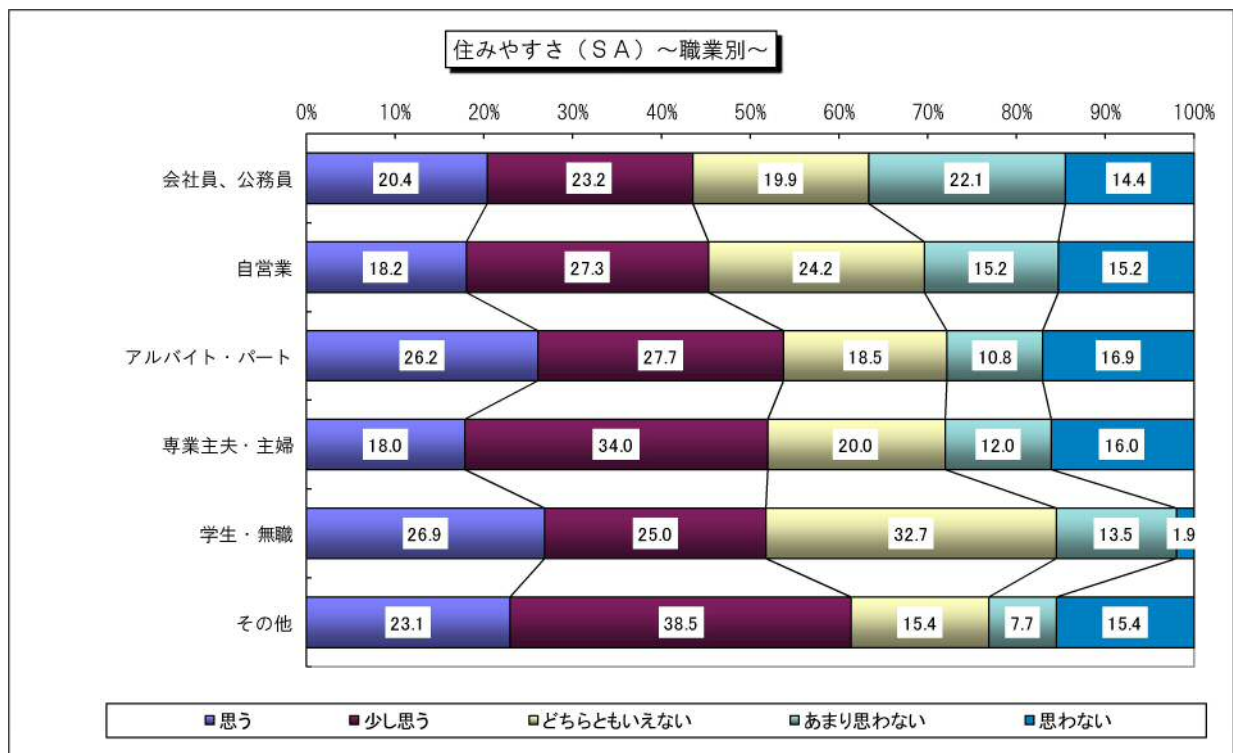
グラフで見る集計結果



■年代別にみると、60代以上は60%以上が「住みやすい」と感じているが、40代以下では「住みにくい」と感じている人の割合が多くなっている。



■家族構成別にみると、ひとり暮らしで「住みやすい」と感じている人の割合が 53.7%と高くなっているが、核家族、二世帯同居では 40%台と低くなっている。



■職業別にみると、「思う」「少し思う」を合わせ、アルバイト・パートの方で「住みやすい」と感じている人の割合が 53.9%と高く、これに対し、会社員、公務員は「住みやすい」と感じている人は 43.6%と低い。

住みやすいと【思う】【思わない】の理由

住みやすさ	思う	長年住み慣れているから。	7
		災害が少なく穏やか。	47
まち中が静かで過ごしやすい(でも交通が不便)。		5	
良い企業があること。高校が地元にあること。			
自然に恵まれて静かなところ。		15	
生活に必要なことは整っている。人口密度がちょうどよい。			
そんなに不満はない。生まれたところだから。		2	
交通の便は悪いが、ライフラインの途絶えが無い。			
子供を遊ばせる場所(つばさの開放)がある。			
物価が安い。		2	
まわりの人達(住民)がいい人が多い。			
商店もそれなりに充実している。		3	
他市に比べて除雪が良いのと、特に不便だと思わないため。			
気候がいい。		3	
一長一短はあると思います。上を見るときりがないです。			
子育てについてなど相談できる環境がある(保健師さんが親切)。			
父親の仕事で野花南で生まれて豊岡、滝里などで育ったために、やはり、芦別が一番ですよ。			
市民が穏やかに暮らしている。			
星がきれいだから。			
コンビニも少なくなく、スーパーも近い。札幌や旭川への都市にも気軽にいける距離。			
最低限の便利さ。			
芦別市以外に住んだことが無い。			
治安が良い。	6		
思わない	芦別市内は店とかあって良いが、上芦別に来たら何もないため。上芦別町にエホバ建てるくらいなら駅前付近にコンビニとか建ててほしい。		
	交通の便が悪い。	21	
	店の種類が少なく買い物、飲食が不便。	17	
	医療施設が充実していない(小児科が無い等)。	26	
	様々な助成制度があるが市内の店に限定されると品揃えが少なく結局利用できない。		
	ゴミ袋が高い。	2	
	水道料金が安い。	2	
	嗜好きな人が多いから。		
	働く場所が少ない。	4	
	子供が育てづらい。	2	
	まち全体が排他的で暗い。		
	公的施設(病院・保健所等)が不十分		
	すごく不便だから		
	10代の私にとって若者が利用しやすい施設が少ない。		
	芦別に住む魅力を感じない。縁が無ければ来たいと思わない。		
	子ども・若者が遊ぶ場所がない。	4	
	休日に利用できる公共施設が少ない。		
	施設がない、福祉に疎い、福祉に力なさすぎ。		
	冬場の除雪作業が劣悪。除雪後の氷の放置等。	2	
	逆にどこをどう見てその質問に至るのか。		
	子供を育てていくうえで高校なども選べない。遠い。		
	土曜日もATM使えない。		
	病院への通院、専門家が無いため砂川、札幌へ通院している。		
	夏暑く冬雪が多い。		
	学校少ないし学習意欲が少ない。		
	ゴミの分別が厳しい。		
税金が高い。			

(2) 定住意向

【問】あなたはこれからも芦別市に住み続けたいと思いますか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

全体結果

■芦別市での今後の定住意向については、47.0%が「市内に住み続けたい」と回答しているのに対し、25.9%が市外への転出を望んでいる。

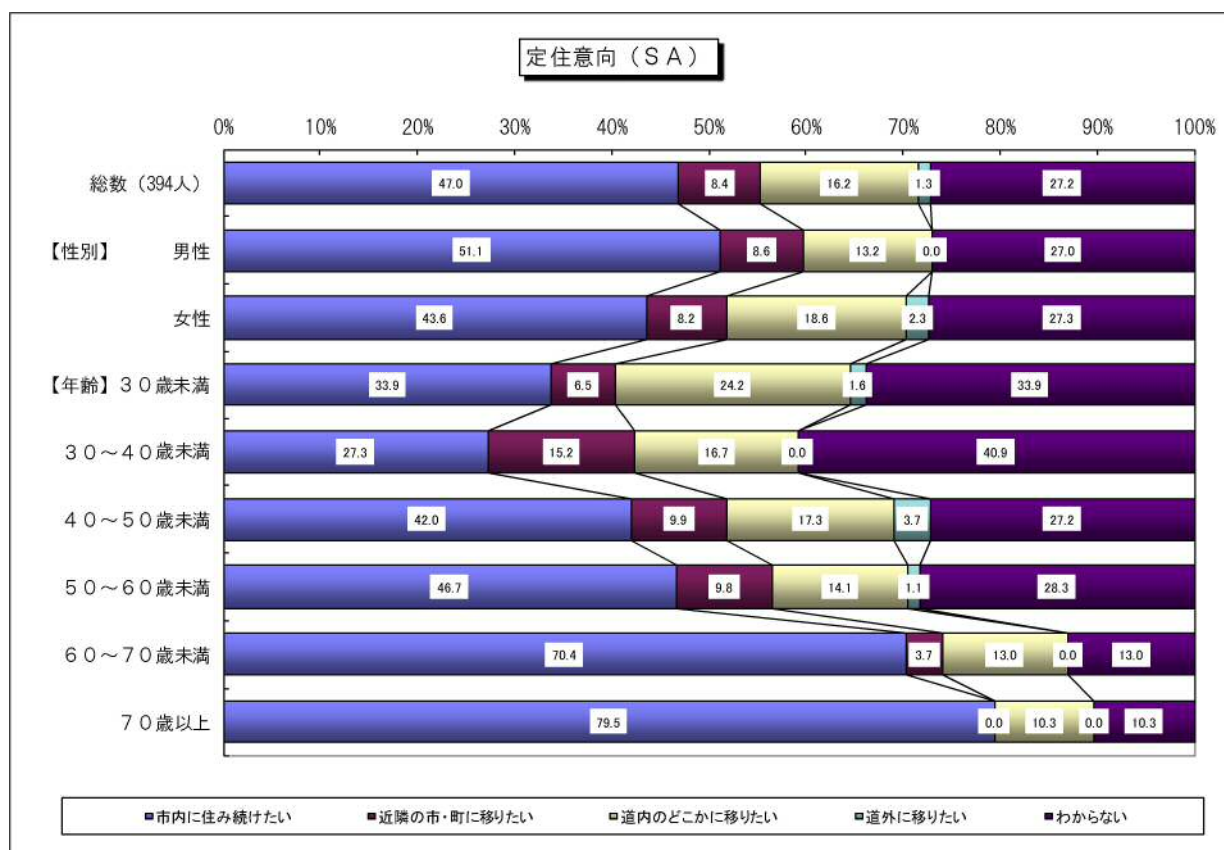
また、前回調査との比較においては、今回「どちらともいえない」との選択項目を追加し16.2%の回答があったため単純比較はできないが、市外への転出を望む人の割合は大きく増加している。

前回(平成20年)調査との比較

[単位:%]

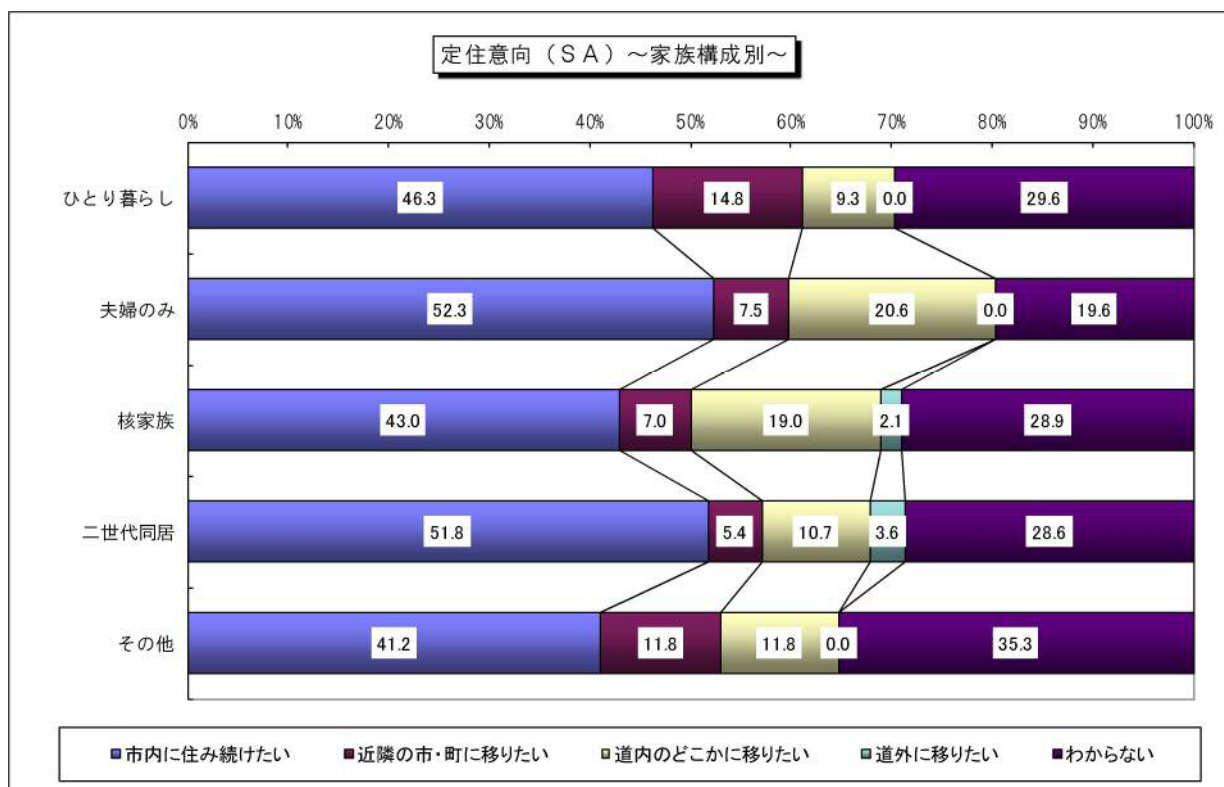
定住意向	全体	男性	女性	29歳以下	30代	40代	50代	60代	70歳以上
H30	47.0	51.1	43.6	33.9	27.3	42.0	46.7	70.4	79.5
H20	67.9	74.9	62.5	40.6	51.1	48.5	65.4	76.7	81.4

グラフでみる集計結果

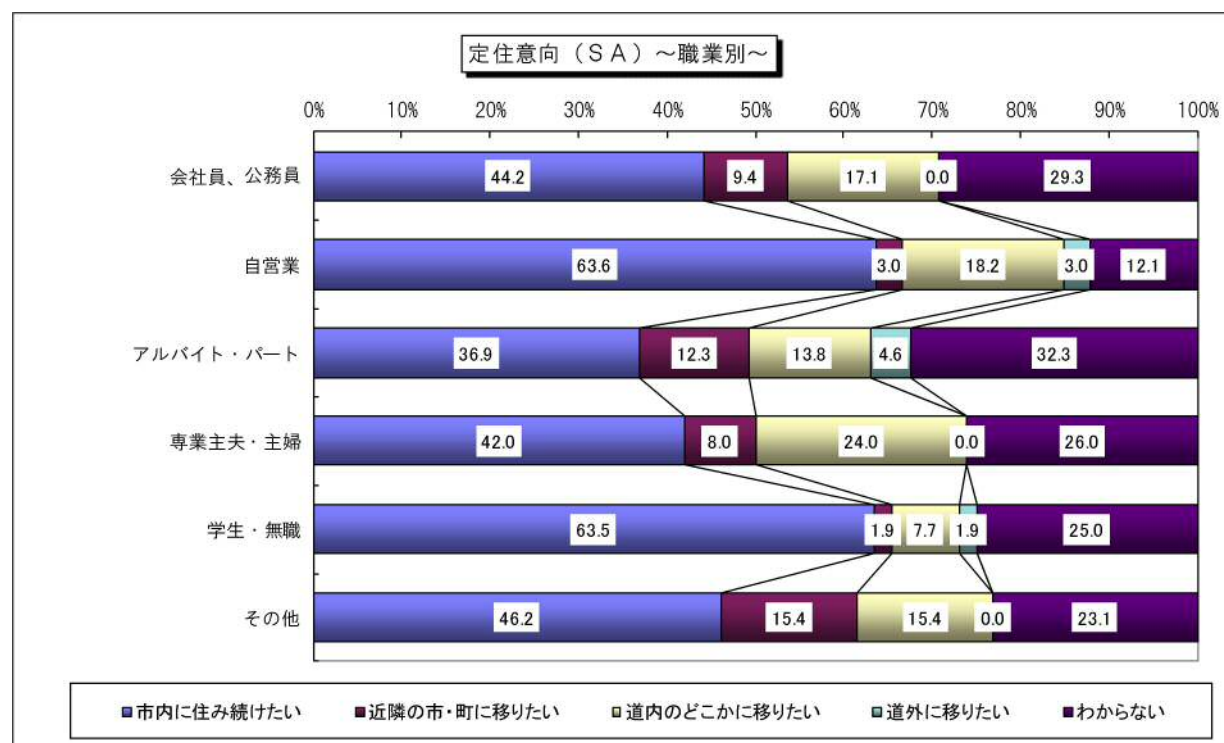


■男女別にみると、市内での定住を望んでいるのは男性が51.1%、女性が43.6%となっており、女性よりも男性の方の定住意向が強い。

■年代別にみると、定住意向は年代が高くなるにつれて強まり、70歳以上の定住意向は79.5%となっている。これに対し30歳未満は33.9%で、70歳以上の定住意向の半分以下となっている。また、30代が27.3%と最も低い割合となっている。



■家族構成別にみると、「夫婦のみ」及び「二世世代同居」では、定住を望む人が50%以上いるが、「ひとり暮らし」及び「核家族」では50%以下となっている。



■職業別にみると、「自営業」及び「学生・無職」の定住意向が約63%となっているのに対し、「アルバイト・パート」の定住意向は36.9%と低くなっている。

市内に住み続けたいと答えた方の理由

住み続けたい	思う	高齢者住宅なので団地に入居したい。	
		仕事に就いているため。	32
		近くに親や子供等、身内がいるため。	18
		持家があるため。	72
		移りたい市町村もない。	8
		どこに行っても同じ。	2
		他のところは良さそうに見えない。	
		災害の少ない。豊かな自然のまちなので。	6
		農業のため。	2
		住宅を引き継ぐ(引き継いだ)ため。	2
		先祖代々居住しているの。	
		リフォームした住宅に住み続けたい。	
		静かで良い。	
		夫のふるさとなので。現時点で生活するのに不便さを感じないので。	
		住宅環境が良いため。	
		住み慣れたまちだから。	8
		知り合いがいるから。	
		困ることがないから。	2
		住み続けるしかない。	
		墓があるため。	3
		自営業のため。	3
		もっと店やコンビニを増やしてほしい。	
		環境が良いため。	2
		30年以上住んでいるの。	
		通勤に便利。他で暮らしたいと思わない。	2
		今の場所に住み続けたいが病気になる通院しておりいつまで続けられるか不安を持っています。	
		地価が安い。	
		今の場所に住み続けたい。	
		気候が良く、知人友人の関係から。	4
		車で外の町へ出かけるのに便利。	
		引っ越しする必要がないから。	
		今更、知らない土地には住めない。	
		ご近所の方が良い人で住みやすい。	
		老人なので環境を変えたくない。	
		他に住むことは考えたことはない。	
		バスで通える。	
都会よりも自然豊かな所が良い。			
落ち着くから。			
高齢者と同居のため環境を変えない方が良いと思うから。			
愛着があるから。			
除雪が綺麗で長年住んでいるから。			

芦別市から移りたいと答えた方の理由

移りたい	その他	嫁に行きたいから。	
		実家(市外)に戻りたい気持ちがある。	
		雪がしんどい。	
		空き家が多くとても寂しい。空き家を活用する何かあれば良いと思う。	
		観光も芦別に立ち寄るスポットが無い。広い公園があってほしい。子供を連れていきたいと思うようなサル山は良いと思う。富良野の朝日ヶ丘公園のように。	
		市政に携わる人達に信頼感が持てない。	
		仕事が赤平だから。	2
		転勤族なため。	3
		子供が市外にいるため、将来、同居となるかもわからない。	2
		人口が15,000人を割ってる市で老人、知的障がい者が多すぎ。	
		生まれ育ったまちで暮らしたい。	
		交際相手が札幌にいて結婚を考えているから。	
		教育を大事にしないと地域を大事にする将来の担い手が育たない。	
		札幌市に昔住んでたので。	
		親と同居中なので。親が死んだらその先わからない。	
		高齢化がますます進み人口の減少、お店の数が少なくなり未来を考えられない。	
		既に他の街に持家があるため。	
今はいいけど将来先行きが不安です。			
家賃が高すぎる。			
人生の終わりの住み所は色々な状況で変わるので決められない。			

<住みたい場所（記述項目）>

近隣市町	道内のどこか	道外	その他
滝川市	22 札幌市	44 東京都	1 雪の少ない、大きな病院がある町
砂川市	2 旭川市	21 千葉県	1 どこでも良い
赤平市	4 千歳市	1 大阪府	1 雪の降らない沖縄県など
岩見沢市	1 北広島市	3	転勤の関係で
富良野市	5 江別市	1	大きな病院があればどこでも
中富良野町	1 釧路市	1	芦別より少し都心部
東神楽町	1 函館市	1	子供の近く

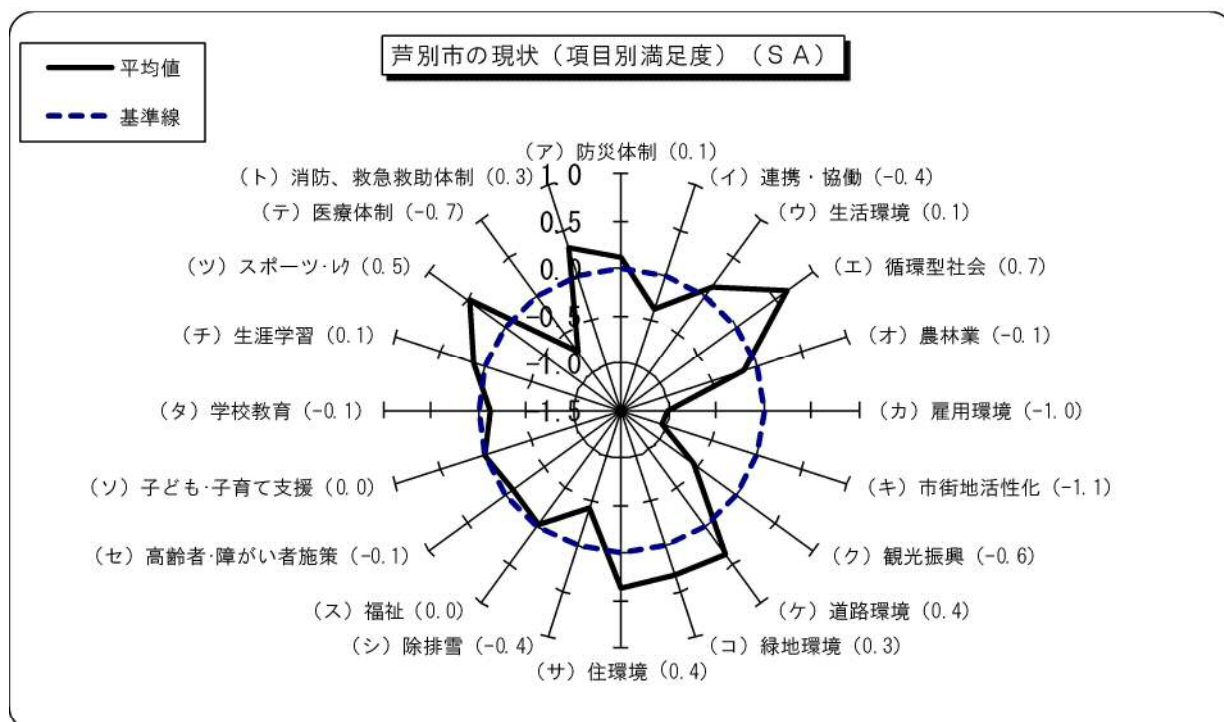
(3) 芦別市の現状（項目別満足度）

【問】 芦別市の現状についてどのように感じていますか。次の各項目について、あなたのお考えに近いものそれぞれ1つに○印をつけてください。

全体結果

■ 芦別市の施策に対する満足度は、「満足」と「やや満足」の回答を合わせて『満足』とし、「不満」と「やや不満」の回答を合わせて『不満』と判断した場合に、20項目のうち「満足」と「不満」が10項目ずつと評価された。満足度が最も高いのは「循環型社会」で、以下「道路環境」「緑地環境」「住環境」「生活環境」「消防、救急救助体制」の順となっている。一方、満足度が最も低いのは「市街地活性化」で、以下、「医療体制」「除排雪」「雇用環境」「観光振興」「市民と行政との連携」の順となっている。

■ 項目別満足度指標（パラメータ）



※ (ア) から (ト) の項目ごとに、「満足」に+2、「やや満足」に+1、「やや不満」に-1、「不満」に-2の加重値を与え、平均値により比較しました。0で結ぶ基準線に対して、その外側ほど満足度が高く、内側ほど不満度が高いことを表しています。

■ 属性別（性別、年齢別、家族構成別、職業別）にみた場合も、全体結果とほぼ同様の結果となっており、「満足」や「不満」と感じる上位項目は全て僅差になっている。

◆「性別」でみる項目別満足度

性別	第1位			第2位			第3位			
	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	
満足	男性	循環型社会	121	69.5%	道路	85	48.9%	緑地環境	85	48.9%
	女性	循環型社会	148	67.3%	道路	129	58.6%	住環境	99	45.0%
不満	男性	市街地活性化	125	71.8%	医療体制	101	58.0%	雇用環境	100	57.5%
	女性	医療体制	131	59.5%	除雪体制	123	55.9%	市街地活性化	119	54.1%

◆「年齢別」でみる項目別満足度

年代	第1位			第2位			第3位			
	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	
満足	30歳未満	循環型社会	41	66.1%	道路	37	59.7%	安全・安心な生活環境	30	48.4%
	30～40歳未満	循環型社会	46	69.7%	道路	36	54.5%	安全・安心な生活環境	33	50.0%
	40～50歳未満	循環型社会	48	59.3%	道路	36	44.4%	緑地環境	31	38.3%
	50～60歳未満	循環型社会	63	68.5%	道路	50	54.3%	住環境施設	50	54.3%
	60～70歳未満	循環型社会	45	83.3%	消防・救急	33	61.1%	道路	32	59.3%
	70歳以上	循環型社会	26	66.7%	消防・救急	24	61.5%	道路	23	59.0%
不満	30歳未満	医療体制	36	58.1%	除排雪体制	35	56.5%	市街地活性化	32	51.6%
	30～40歳未満	市街地活性化	42	63.3%	医療体制	37	56.1%	除排雪体制	37	56.1%
	40～50歳未満	市街地活性化	57	70.4%	医療体制	54	66.7%	除排雪体制	52	64.2%
	50～60歳未満	医療体制	62	67.4%	市街地活性化	61	66.3%	観光振興	55	59.8%
	60～70歳未満	医療体制	31	57.4%	市街地活性化	31	57.4%	雇用環境	28	51.9%
	70歳以上	雇用環境	22	56.4%	市街地活性化	21	53.8%	除排雪体制	20	51.3%

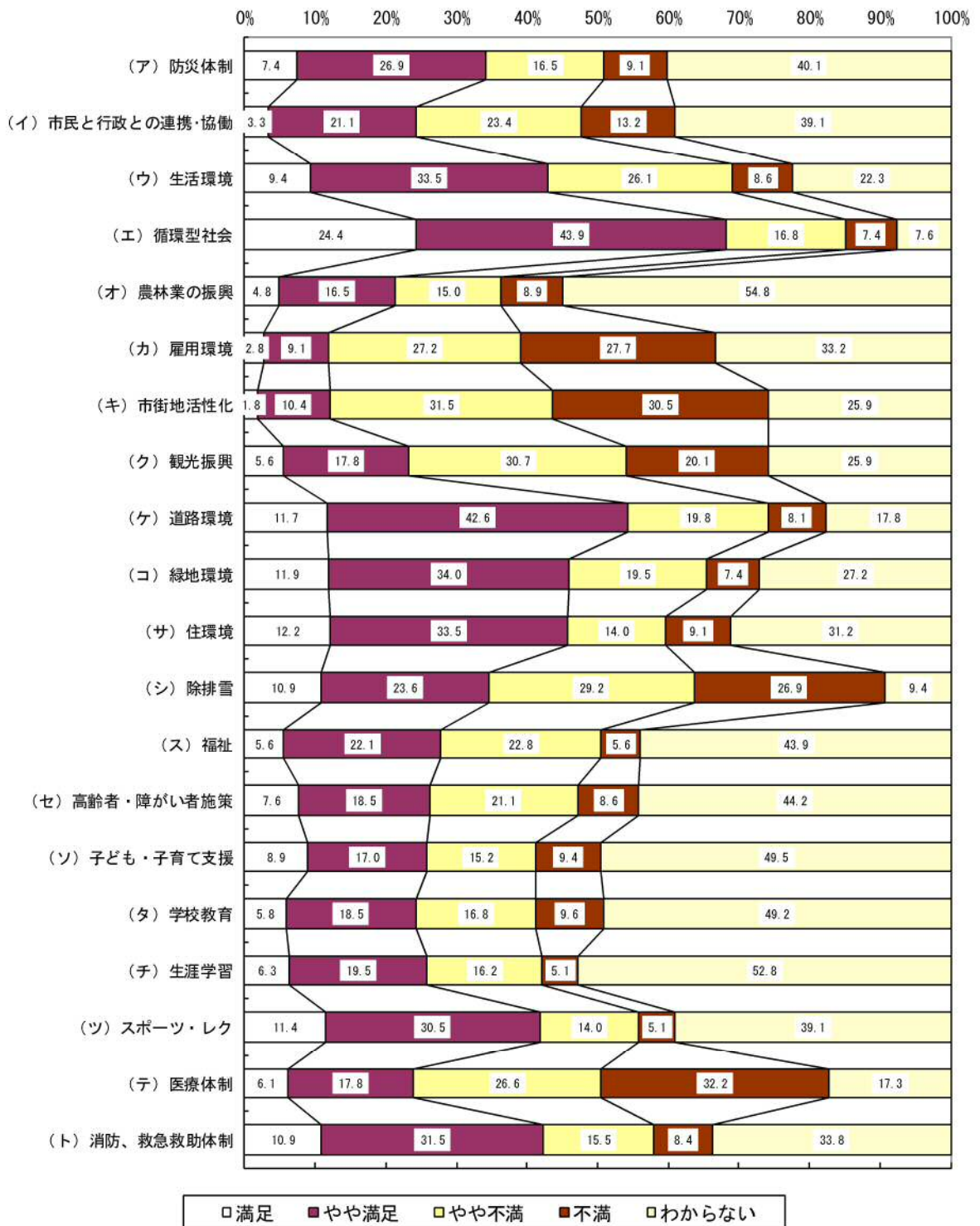
◆「家族構成」でみる項目別満足度

家族構成	第1位			第2位			第3位			
	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	
満足	ひとり暮らし	循環型社会	39	72.2%	道路	31	57.4%	安全・安心な生活環境	28	51.9%
	夫婦のみ	循環型社会	71	66.4%	道路	55	51.4%	緑地環境	50	46.7%
	核家族	循環型社会	91	64.1%	道路	75	52.8%	スポーツ・レク	59	41.5%
	二世帯世帯	循環型社会	43	76.8%	道路	37	66.1%	緑地環境	35	62.5%
	その他	循環型社会	24	70.6%	安全・安心な生活環境	18	52.9%	除排雪体制	17	50.0%
不満	ひとり暮らし	市街地活性化	31	57.4%	医療体制	27	50.0%	観光振興	27	50.0%
	夫婦のみ	市街地活性化	63	58.9%	医療体制	62	57.9%	除排雪体制	61	57.0%
	核家族	市街地活性化	92	64.8%	除排雪体制	91	64.1%	医療体制	89	62.7%
	二世帯世帯	雇用環境	38	67.9%	市街地活性化	37	66.1%	医療体制	35	62.5%
	その他	市街地活性化	20	58.8%	観光振興	20	58.8%	医療体制	18	52.9%

◆「職業別」でみる項目別満足度

職業	第1位			第2位			第3位			
	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	
満足	会社員、公務員	循環型社会	120	66.3%	道路	95	52.5%	住環境施設	78	43.1%
	自営業	循環型社会	22	66.7%	消防・救急	22	66.7%	緑地環境	20	60.6%
	アルバイト・パート	循環型社会	49	75.4%	道路	43	66.2%	住環境施設	33	50.8%
	専業主夫・主婦	循環型社会	34	68.0%	道路	27	54.0%	スポーツ・レク	24	48.0%
	学生・無職	循環型社会	34	65.4%	緑地環境	27	51.9%	消防・救急	27	51.9%
	その他	循環型社会	10	76.9%	住環境施設	9	69.2%	除排雪体制	8	61.5%
不満	会社員、公務員	医療体制	123	68.0%	市街地活性化	122	67.4%	雇用環境	103	56.9%
	自営業	市街地活性化	25	75.8%	雇用環境	20	60.6%	観光振興	20	60.6%
	アルバイト・パート	除排雪体制	43	66.2%	医療環境	37	56.9%	雇用環境	35	53.8%
	専業主夫・主婦	医療体制	26	52.0%	除排雪体制	25	50.0%	雇用環境	24	48.0%
	学生・無職	市街地活性化	31	59.6%	除排雪体制	27	51.9%	雇用環境	26	50.0%
	その他	市街地活性化	11	84.6%	観光振興	11	84.6%	雇用環境	8	61.5%

芦別市の現状（項目別満足度）（S A）



2 まちづくりの方向と市民参加について

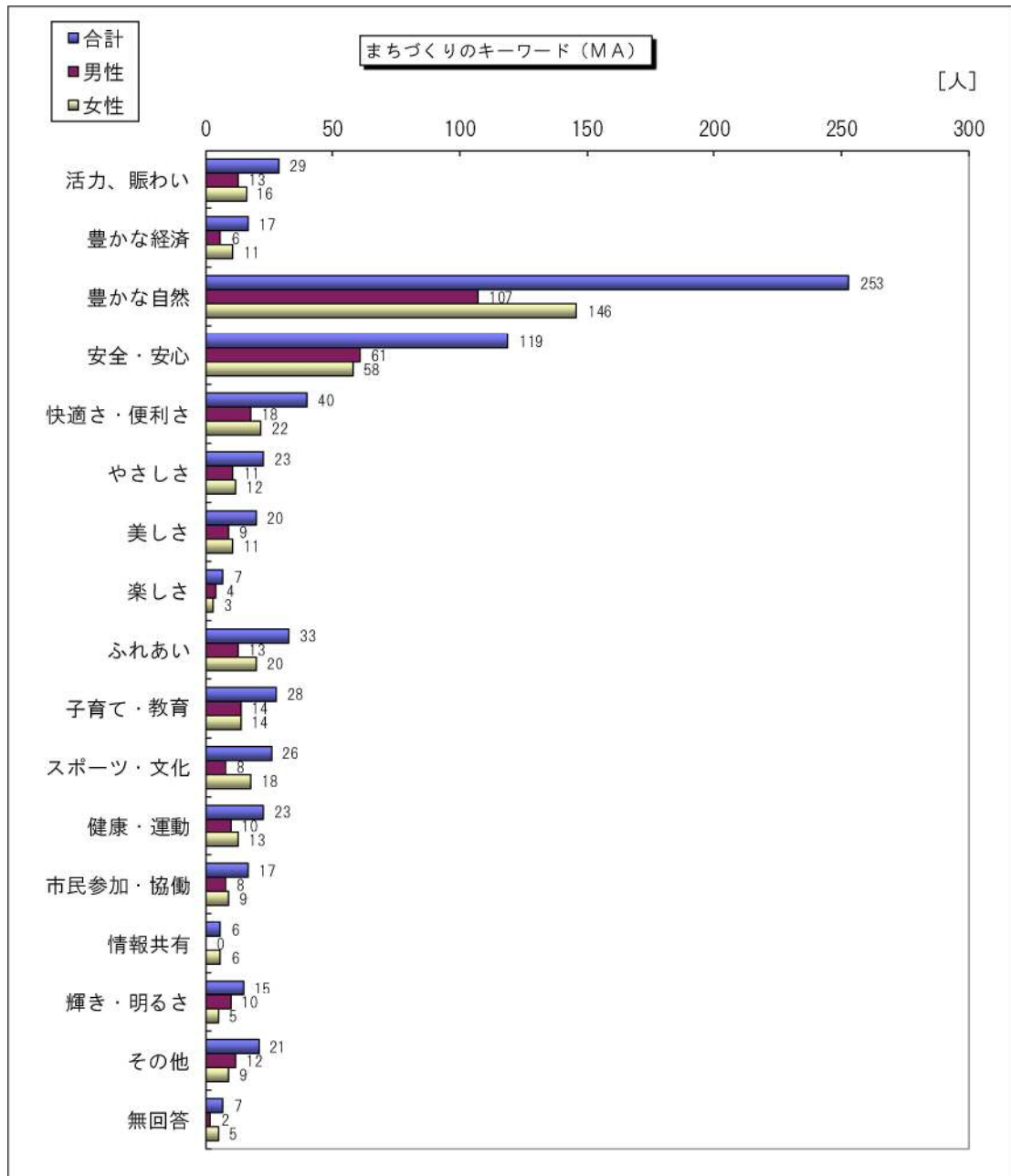
(1) まちづくりのキーワード

【問】今後の芦別市の“まちづくり”を表す「言葉（キーワード）」として、あなたが重視すべきと思うものの番号に○印をつけてください。（複数回答可）

全体結果

■今後のまちづくりで重視すべきキーワードとしては、「豊かな自然」が最も多く、以下「安全・安心」「快適さ、便利さ」「ふれあい」「活力、賑わい」の順となっており、「豊かな自然」「安全・安心」が大多数を占めている。「豊かな自然」は回答者数の約3分の2を占めている。

グラフでみる集計結果



◆「年齢別」でみるまちづくりのキーワード

年代	第1位			第2位			第3位		
	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比
30歳未満	豊かな自然	41	36.0%	安全・安心	12	10.5%	ふれあい	10	8.8%
30～40歳未満	豊かな自然	42	35.0%	安全・安心	19	15.8%	子育て・教育	12	10.0%
40～50歳未満	豊かな自然	52	40.9%	安全・安心	18	14.2%	スポーツ・文化	11	8.7%
50～60歳未満	豊かな自然	63	42.0%	安全・安心	32	21.3%	快適さ・便利さ	7	4.7%
60～70歳未満	豊かな自然	32	32.0%	安全・安心	22	22.0%	快適さ・便利さ	6	6.0%
70歳以上	豊かな自然	23	31.5%	安全・安心	16	21.9%	快適さ・便利さ	6	8.2%

◆「家族構成別」でみるまちづくりのキーワード

家族構成	第1位			第2位			第3位		
	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比
ひとり暮らし	豊かな自然	30	29.4%	安全・安心	20	19.6%	快適さ・便利さ	8	7.8%
夫婦のみ	豊かな自然	69	36.9%	安全・安心	33	17.6%	快適さ・便利さ	12	6.4%
核家族	豊かな自然	95	40.8%	安全・安心	39	16.7%	子育て・教育	15	6.4%
二世帯世帯	豊かな自然	41	41.0%	安全・安心	17	17.0%	ふれあい	7	7.0%
その他	豊かな自然	18	29.5%	安全・安心	10	16.4%	スポーツ・文化	5	8.2%

◆「職業別」でみるまちづくりのキーワード

職業	第1位			第2位			第3位		
	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比
会社員、公務員	豊かな自然	125	40.6%	安全・安心	52	16.9%	快適さ・便利さ	18	5.8%
自営業	豊かな自然	20	38.5%	安全・安心	7	13.5%	子育て・教育	4	7.7%
アルバイト・パート	豊かな自然	43	36.4%	安全・安心	19	16.1%	スポーツ・文化	9	7.6%
専業主夫・主婦	豊かな自然	32	37.2%	安全・安心	13	15.1%	子育て・教育	5	5.8%
学生、無職	豊かな自然	28	29.8%	安全・安心	22	23.4%	ふれあい	7	7.4%
その他	安全・安心	6	23.1%	豊かな自然	5	19.2%	快適さ・便利さ	2	7.7%

これからの「まちづくりのキーワード」を年齢別、家族構成別、職業別で見た場合、どの種別でも「豊かな自然」が最も多く、これに次いで「安全・安心」「快適さ、便利さ」が多かった。

豊かな自然環境を活かしたまちづくりと誰もが安心して安全に暮らせる生活環境の確保が望まれている。

年齢別の集計では、30代が「子育て・教育」を重視すべきという意見が多くなっている。

(2) 優先すべき住民サービス

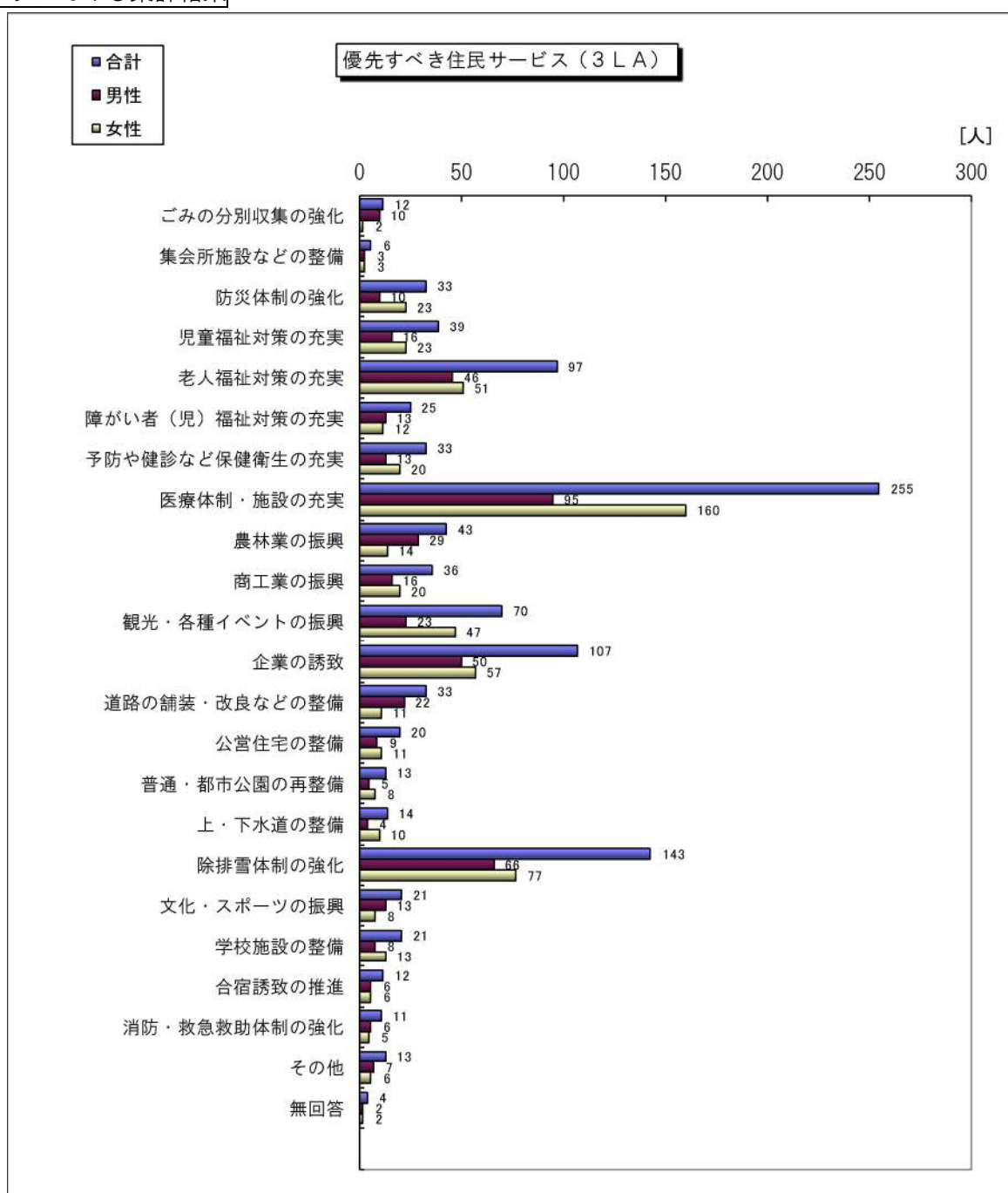
【問】あなたは、どの住民サービスを重視して取り組むべきと思いますか。

優先すべきものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。

全体結果

■今後優先的に取り組むべき住民サービスとしては、「医療体制・施設の充実」が突出して多く、次いで「除雪体制の強化」「企業の誘致」「老人福祉対策の充実」「観光・各種イベントの振興」の順となった。高齢化に対応した福祉・医療の充実、雇用の場の確保や観光振興による賑わいの創出を優先すべきとの意向が強かった。

グラフでみる集計結果



◆「年齢別」にみる優先すべき住民サービス

年代	第1位			第2位			第3位		
	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比
30歳未満	医療体制・施設の充実	34	19.5%	除排雪体制の強化	25	14.4%	観光・各種イベントの振興	14	8.0%
30～40歳未満	医療体制・施設の充実	41	23.3%	除排雪体制の強化	24	13.6%	企業の誘致	20	11.4%
40～50歳未満	医療体制・施設の充実	52	24.0%	除排雪体制の強化	32	14.7%	企業の誘致	21	9.7%
50～60歳未満	医療体制・施設の充実	67	27.0%	老人福祉対策の充実	29	11.7%	除排雪体制の強化	27	10.9%
60～70歳未満	医療体制・施設の充実	41	28.1%	除排雪体制の強化	20	13.7%	老人福祉対策の充実	18	12.3%
70歳以上	医療体制・施設の充実	20	20.0%	企業の誘致	18	18.0%	除排雪体制の強化	15	15.0%

◆「家族構成別」にみる優先すべき住民サービス

家族構成	第1位			第2位			第3位		
	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比
ひとり暮らし	医療体制・施設の充実	33	22.8%	老人福祉対策の充実	20	13.8%	除排雪体制の強化	18	12.4%
夫婦のみ	医療体制・施設の充実	75	26.4%	除排雪体制の強化	39	13.7%	老人福祉対策の充実	34	12.0%
核家族	医療体制・施設の充実	94	23.8%	除排雪体制の強化	56	14.2%	企業の誘致	36	9.1%
二世帯同居	医療体制・施設の充実	38	24.1%	企業の誘致	25	15.8%	除排雪体制の強化	15	9.5%
その他	医療体制・施設の充実	15	19.7%	除排雪体制の強化	14	18.4%	企業の誘致	7	9.2%

◆「職業別」にみる優先すべき住民サービス

職業	第1位			第2位			第3位		
	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比	項目	人数	構成比
会社員、公務員	医療体制・施設の充実	118	23.6%	除排雪体制の強化	62	12.4%	企業の誘致	52	10.4%
自営業	医療体制・施設の充実	21	22.3%	農林業の振興	15	16.0%	企業の誘致	10	10.6%
アルバイト・パート	医療体制・施設の充実	46	25.8%	除排雪体制の強化	27	15.2%	観光・各種イベントの振興	16	9.0%
専業主夫・主婦	医療体制・施設の充実	34	27.2%	除排雪体制の強化	19	15.2%	企業の誘致	13	10.4%
学生・無職	医療体制・施設の充実	30	22.2%	除排雪体制の強化	23	17.0%	老人福祉対策の充実	17	12.6%
その他	医療体制・施設の充実	6	18.9%	観光・各種イベントの振興	5	17.2%	除排雪体制の強化	5	17.2%

「優先すべき住民サービス」を年齢別、家族構成別、職業別で見た場合、全ての種別項目において「医療体制・施設の充実」が最も多く、市民は健康を守る地元医療の充実を望んでいる。これに次いで「除雪体制の強化」「企業の誘致」「老人福祉対策の充実」が多く、各種別で見た場合でも、全体結果とほぼ同じ結果となった。

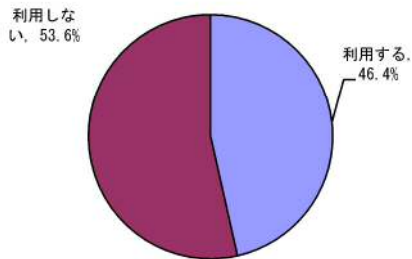
3 その他

(1) 市立病院について

【問】市立芦別病院の利用状況などについてお伺いします。

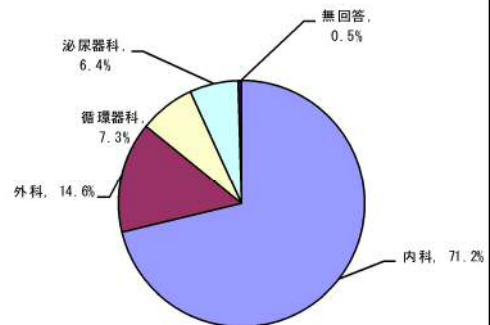
1. 利用の有無

利用の有無 [SA]



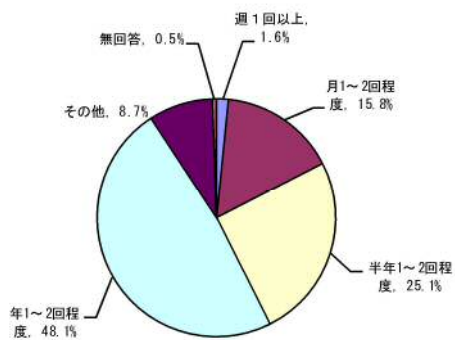
2. 利用する診療科

利用する診療科 [SA]



3. 利用頻度

利用頻度 [SA]



全体結果

市立病院を利用する答えた人は半数に満たない。

利用する診療科は、内科が最も多く、以下、外科、循環器科、泌尿器科の順となっている。

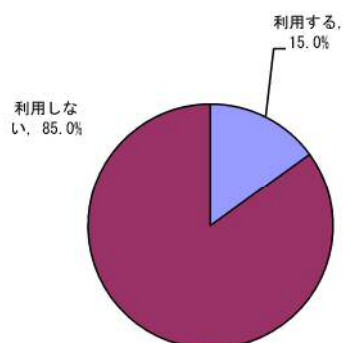
利用頻度は、「年1~2回程度」が最も多く、以下、「半年1~2回程度」「月1~2回程度」の順となっている。

(2) キラキラバスについて

【問】キラキラバスの利用状況などについてお伺いします。

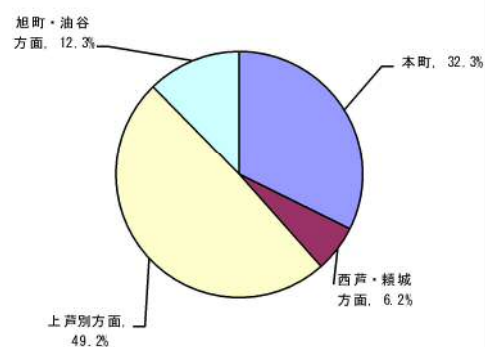
1. 利用の有無

利用の有無 [SA]



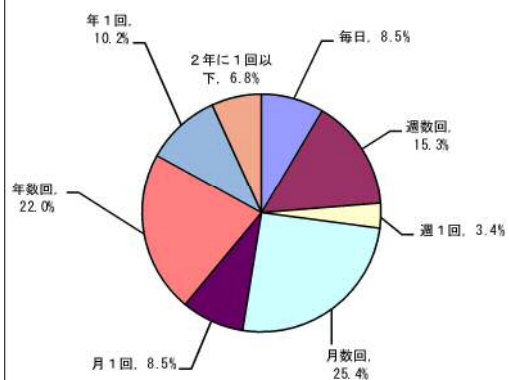
2. 利用する地区

利用する地区 [SA]



3. 利用頻度

利用頻度 [SA]



全体結果

キラキラバスを利用する答えた人の割合は15%と低くなっている。

利用する地区は、上芦別方面が最も多く、以下、本町、旭町・油谷方面、西芦・頼城方面の順となっている。

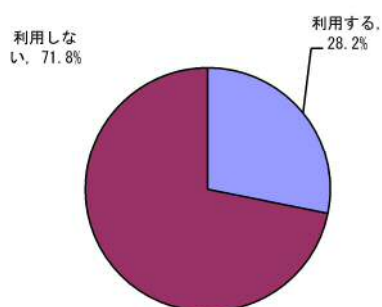
利用頻度は、「月数回」が最も多く、以下、「年数回」「週数回」の順となっている。

(3) JR 根室線について

【問】 JR 根室線の利用状況などについてお伺いします。

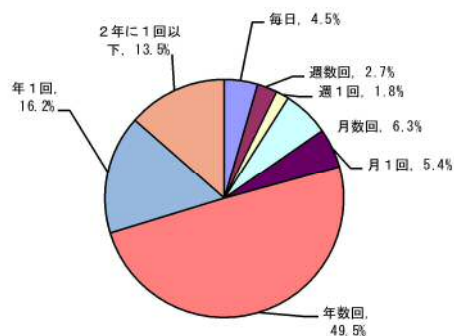
1. 利用の有無

利用の有無 [SA]



2. 利用頻度

利用頻度 [SA]



3. 利用目的

利用目的 [SA]



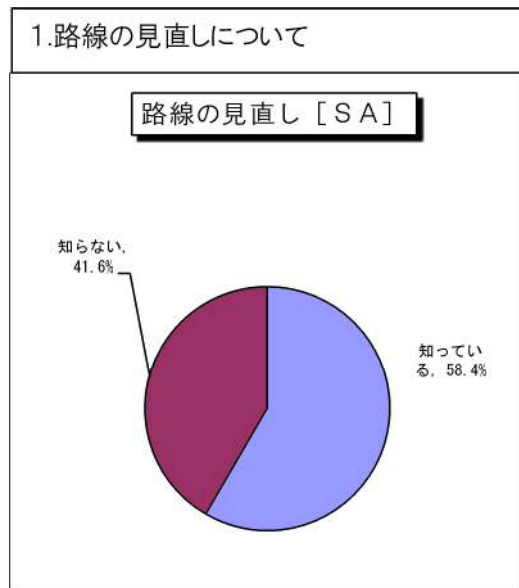
全体結果

JR 根室線を利用する答えた人の割合は 28.2%と低くなっている。

利用頻度は、「年数回」が最も多く、以下、「年1回」「2年に1回以下」の順となっている。また、「毎日」「週数回」「週1回」と利用頻度の高い人の割合が 9.0%となっている。

利用目的は、「買い物」が最も多く、以下、「観光(旅行)」「通院」「ビジネス」の順となっている。

【問】 JR 北海道による根室線を含む利用者が少ない路線の見直しについてお伺いします。



全体結果

■半数以上の方が、JR 根室線の維持・存続問題を知っていると回答した。路線が廃止されバス転換された場合に、「困らない」と答えた人が「困る」と答えた方を上回っており、約半数の人は「わからない」と回答した。